

「2023年度浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学経済学部1年 松崎 歩美

① 学習成果

今回のプログラムを通して留学に対する意欲が高まったと感じる。中国人の学生だけでなく、世界各国の学生と話をし、日本語以外の言語（英語や中国語）でコミュニケーションをとることの楽しさや難しさを実感し、自分自身の語学力を高めたいと思えるきっかけになった。プログラム参加前は、交換留学に挑戦するか迷っていた部分があったが、帰国後の今、大学在学中に交換留学に挑戦する意思が固まった。

また、中国に対する興味・関心が高まった。中国での実際の生活体験を通して、日本にいた際に漠然と抱いていた中国のイメージとは全く異なり、中国はまだまだ発展途上の国なのだと感じた。今後は中国の発展などについて学びたいという気持ちが芽生えた。

② 海外での経験

私は今回が初めての海外経験となり、生活スタイルの違いなどに戸惑うことも多々あったが、日本にいただけでは得られない新たな価値観を得ることができ、大きな収穫になったと思う。また、改めて日本の良さや日本が好きだという気持ちに気づくことができた。

③ プログラム内容

基本的に平日の午前中に授業、午後と土日に観光をするという形だった。私は中国語のレベル2クラスに在籍しており、授業は Reading, Speaking, Listening の三つの形態に分かれていた。Reading の授業では文法や新出単語を学んでダイアログを読み、Speaking の授業では新出単語の確認や、少人数グループでの会話練習やディスカッションも行われた。Listening の授業では教科書の練習問題をひたすらみんなで解いていた。午後はプログラム参加者全員（京大、大阪大、東大、静岡県立大、タイ人の学生）で観光する日もあれば、自由行動の日もあった。プログラムとしては博物館、商店街、ライトアップなどに行った。自由行動の日には、西湖や杭州運河、杭州植物園などに観光に行ったり、サッカーをしたり、クラスメイトの留学生と食事に行ったりと楽しく過ごした。土日は完全に自由行動で各自で好きなように過ごした。土日は時間があるので上海、南京、蘇州などに遠出することもできる。（私は杭州に残っていた。）

④ 進路への影響について

①でも述べたように、大学在学中に交換留学に行こうと思える経験となった。また、異文化コミュニケーションにも興味が出てきたため、京都大学に来ている留学生と関われる機会を持ちたいと思うようになった。